



## どれがぼくかわかる？

カーラ・カスキン ぶん・え

よだ しずか やく

偕成社 1970年 1260円

30ページ 23×26cm

「ね、おかあさん ぼくがみんなのなかにいたら、どれがぼくかわかる？」  
「わかるわ。」ぼく（ウィリアム）がみんなのなかで遊んでいても、間違いなくすぐに見つけてくれるおかあさん。たとえ、ぼくがうまになろうと、スカンクになろうと、おかあさんは必ず見つけてくれます。

そんな愛情あふれるおかあさんの、やさしくあたかなまなざしを、始終感じることができる絵本です。もちろん、ぼくはおかあさんが大好き！そして、この絵本を読んでいるあなたも、きっと、こころあたたまる素敵な時間を過ごすことができるでしょう。

親子でぜひ読んでほしい1冊です。



## どろんここぶた

アーノルド・ローベル 作 岸田 衞子 訳

福音館書店 1971年 897円

64ページ 22×16cm

どろんこが大好きなこぶたは、おばさんにきれいにそうじされ、どろんこもなくなってしまうため家出します。ところが探し求めたどろんこが、実は、セメントだったがために、たいへんな事になってしまいます。

間違っセメントにしずんでいく面白さ、なんとも言えないこぶたの顔。最初から最後までこぶたの豊かな表情をおっていただけでも、充分楽しめます。もちろん、いきいきと描かれたこぶたやおじさん、おばさんの姿から、ローベルのやさしさにつつまれた、おだやかで、ユーモラスな世界を味わうことができるでしょう。